

シリーズ 統計でみる北九州

北九州市の女性就業者

1980年に男女雇用均等法が成立し、今年で40年余りが経過しました。この間に、91年に育児休業法、93年にパートタイム労働法、03年に次世代育成支援法、15年に女性活躍推進法が成立し、女性の就労環境を改善する法律が整備されました。背景には、労働市場への女性参加が進んだことがあります。

北九州市でも、女性の就業者は85年から15年までの30年間に、17万1千人から18万8千人へと、1万7千人増加しています。この間、男性の就業者は5万1千人も減少しており、女性の比重が高まっています。北九州市における、女性の就業者の状況をみてみます。（図表1）

図表1 北九州市における就業者等の推移

単位 人 %

		1985	2015	増減	増減率
男	人口総数	506,618	452,682	△ 53,936	△ 10.6
	15歳以上	391,801	382,656	△ 9,145	△ 2.3
	就業者	278,691	227,352	△ 51,339	△ 18.4
	就業率	77.1	67.2	△ 9.9	—
女	人口総数	549,784	508,604	△ 41,180	△ 7.5
	15歳以上	440,667	443,861	3,194	0.7
	就業者	170,802	187,740	16,938	9.9
	就業率	40.9	46.2	5.2	—

資料) 総務省「国勢調査」 注) 就業率は、15歳以上人口（労働力状態「不祥」を除く）に占める就業者の割合である。

■ 上昇する女性の就業率

女性の就業率を年齢階級別にグラフ化すると、学校卒業後の年代で上昇し、その後、結婚・出産期に一旦低下し、育児が落ち着いた時期に再び上昇するという、M字カーブを描くといわれています。（注）

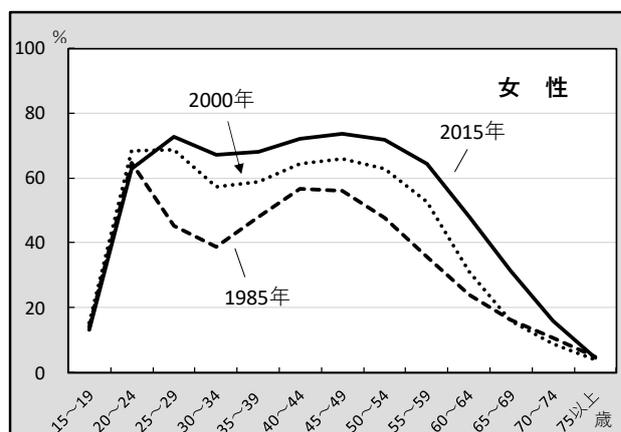
85年の北九州市の女性の就業率をみると、20～24歳（65%）と、40～44歳（57%）を左右のピークとし、30～34歳（39%）を底とする典型的なM字カーブでした。

しかし、15年は20～24歳（73%）と45～49歳（74%）を左右のピークとし、30～34歳（67%）が底となっています。85年と比べると、M字カーブの底が28ポイントも上昇し、窪みが大幅に浅くなるとともに、全体的に大きく上方にシフトしています。（図表2）

85年から15年までの30年間に、各年齢階層で就業率が上昇しており、M字カーブが台形に近づいていることがわかります。

（注）M字カーブは労働力人口比率で作成される場合が多いが、ここでは就業率に用いています。

図表2 北九州市の女性の就業率（M字カーブ）



資料) 総務省「国勢調査」 注) 就業率は、各年齢人口（労働力状態「不祥」を除く）に占める就業者の割合である。

■ 中高年層で就業者が増加

就業率は、『就業者÷人口（労働力状態「不祥」を除く）』で求めます。女性の就業率を年齢階層別にみると、各年齢階層（15～19歳を除く）で就業率は増加しています。しかし、就業率を決

める人口と就業者の動向には、各年齢階層で相違があります。

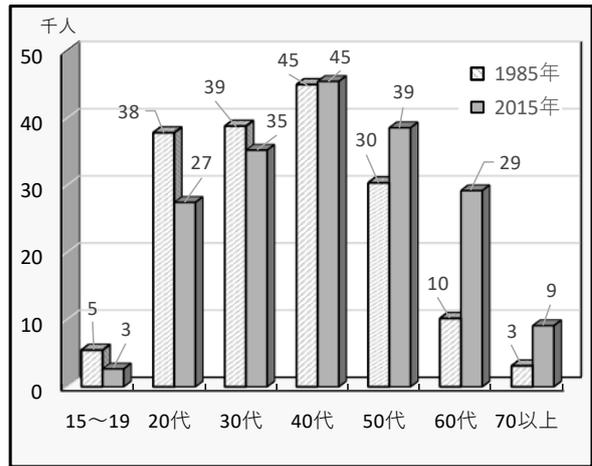
85年と15年のM字カーブを比較すれば、就業率が大幅に上昇したのは30代と50代の年齢階層であることがわかります。85年から15年までの30年間に、30代は24ポイント、50代も26ポイント増加しています。

しかし、就業率が上昇しても就業者は増えていません。30代は3千6百人も減少し、50代は8千2百人の増加にとどまります。就業率の上昇を、人口減少が相殺しているためです。

一方、就業者が最も増えたのは60代で、1万9千人も増えています。70代も6千人増加しています。就業率だけでなく、年齢人口も増加したことが、就業者数を大きく押し上げています。

北九州市で、女性就業者の増加を支えているのは、50代以上の中高年層といえます。（図表3・4）

図表3 女性の就業者数・年齢階層別（北九州市）



資料) 総務省「国勢調査」

図表4 年齢階層別、人口・労働力人口・労働力率の傾向（北九州市）

【女性】

	人口(人)			就業者(人)			就業率(%)			傾向		
	1985	2015	増減	1985	2015	増減	1985	2015	増減	人口	就業者	就業率
15~19歳	38,689	21,889	△ 16,800	5,462	2,664	△ 2,798	14	13	△ 1.1	↓	↓	↓
20代	68,783	43,504	△ 25,279	37,839	27,462	△ 10,377	55	68	13	↓	↓	↑
30代	88,704	55,345	△ 33,359	38,816	35,249	△ 3,567	44	68	24	↓	↓	↑
40代	79,760	65,603	△ 14,157	45,008	45,477	469	56	73	16	↓	↑	↑
50代	72,147	58,730	△ 13,417	30,372	38,574	8,202	42	68	26	↓	↑	↑
60代	49,537	77,367	27,830	10,187	29,218	19,031	21	39	18	↑	↑	↑
70歳以上	43,047	121,423	78,376	3,118	9,096	5,978	7	8	0.4	↑	↑	↑
計	440,667	443,861	3,194	170,802	187,740	16,938	39	44	5.3	↑	↑	↑

資料) 総務省「国勢調査」注) 就業率は、人口(労働力状態「不詳」を除く)に占める就業者の割合である。

■ パートが多い女子就業者

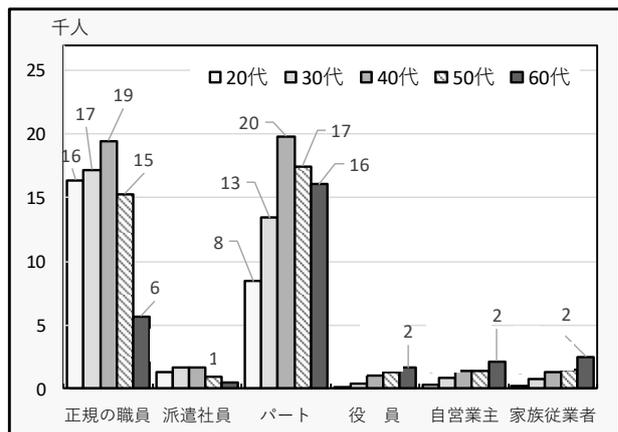
では、女性就業者の従業上の地位はどうか。

女性就業者は「正規の職員・従業者」や「パート・アルバイト」が多くなっています。それぞれ、就業者数を年齢階層別にみえます。

①「正規の職員・従業者」…20代から50代までは、各年齢層で1万5千人から1万9千人が「正規の職員・従業者」になっています。60代になると、多数が定年を迎えた後なので、6千人

図表5 従業上の地位、年齢階層別、就業者の数 2015年 北九州市

【女性】



資料) 総務省「国勢調査」

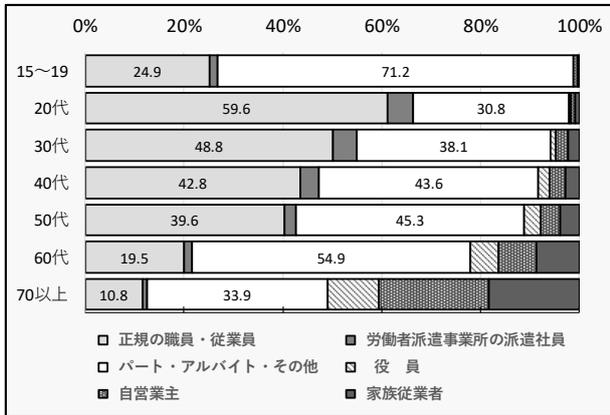
に減少しています。

②「パート・アルバイト」…20代は8千人と少ないのですが、年齢階層が上がるに従い増加、40代は2万人に増えています。その後も大きく減少することなく、50代は1万7千人、60代も1万6千人になっています。女性就業者は、中高年層になっても一定数を維持し、北九州市の市民生活を支えています。（図表5）

構成比をみると、20代では「正規の職員・従業者」が60%と高く、「パート・アルバイト」は31%にとどまります。年齢階層が上がるに従って、「パート・アルバイト」の構成比が高くなり、40代で「正規の職員・従業者」（43%）と「パート・アルバイト」（44%）の構成比が逆転します。60代では、「正規の職員・従業者」は20%と低く、「パート・アルバイト」が55%と、過半数を占めています。（図表6）

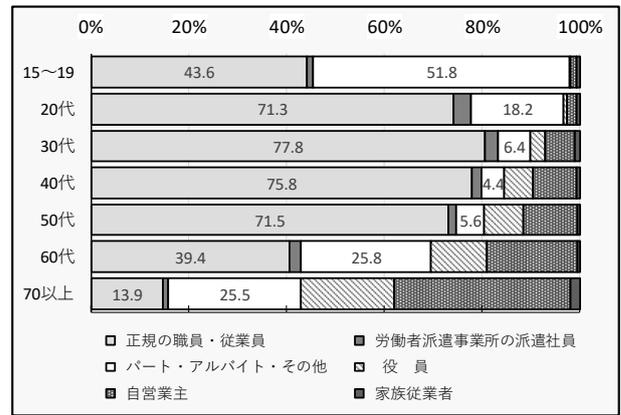
「パート・アルバイト」は雇用調整弁としての側面があります。男性と比べると、女性は「パート・アルバイト」が各年齢層とも高くなっています。（図表7）

図表6 従業上の地位、年齢階層別、就業者の割合
2015年北九州市 【女性】



資料) 総務省「国勢調査」

図表7 従業上の地位、年齢階層別、就業者の割合
【男性】



資料) 総務省「国勢調査」

■ コロナ禍で増える失業者

北九州市の女性就業者をみると、この30年間、就業率では、結婚、出産、子育てなどの時期とも重なる30代では44%から68%へ24ポイント上昇、50代でも42%から68%へ26ポイントも上昇しています。また、就業者数では、50代以上の中高年層の就業者が3万3千人も増加しています。就業者全体の45%が女性となるなど、女性就業者の比重が高まっています。

しかし、女性就業者を男性と比べると、「パート・アルバイト」が多くなっています。働く女性の43%は「パート・アルバイト」です。「パート・アルバイト」は非正規雇用として、雇用調整弁としての側面があります。コロナウイルス禍が長引く中で、多くの女性が失業し、再就職をあきらめる人も多くなりました。女性の就業率を示すM字カーブが解消したようにみえますが、昨年からのコロナウイルス禍は、それがいかにもろいものだったか露呈させています。

男性の就業者が少なくなる中で、安定した市民生活には、女性の労働参加は欠かせません。改めて、女性就業者の待遇改善が強く求められます。